

<p>浄土真宗 瑞林寺 坂井輪 墓苑だより</p>		<p>第48号 平成23年8月1日 発行人 〒951-8133 新潟市中央区川岸町1丁目48 (相沢企業内) 坂井輪墓苑管理事務所 TEL 025-267-9402</p>
---------------------------------------	--	--



古衣
死ぬとは
この古い衣を
ぬぐことでは
ないかな

榎本栄一
詩集「群生海」より

〈写真提供〉
鈴木薫著
「蓮花」鈴木薫写真集
発行 株式会社ラトルズ

お盆のご案内

※ローソク・線香は墓苑にて常備してあります。

お花の予約

八月十三日、お花の用意をして
おります。
なるべく予約でお求め下さい。
予約電話番号

平日 二六七―九四〇二
当日 二六〇―五二四九

墓前読経

十三日 午前八時半より午後六時まで
十四日 午前中承ります。

瀬戸内寂聴 人生問答

切に生かす

CD全12巻(各巻約57分)
無償貸出いたします。
お問い合わせは墓苑詰所まで
電話 二六〇―五二四九

瑞林寺の行事

八月の例会

十三日 お盆のお参り
十六日 二時 歎異抄に学ぶ
(宝池の会)

十八・九日 夏の児童大会
二十日 小針の夏まつり
二十一日 一時半 小針の歴史を語る会

二十八日 一時半 正信偈に聞く(二十八日講)
― 定例の聞法会 ―

◎寺子屋習字教室 金曜日 月 三回

◎ゴスペルコーラス 水曜日 月 二回

九月 例会のほか

二十三日 秋彼岸法要
永代経法要
無量寿廟法要
(永代経供要)

十一月

六日・七日・八日の三日間
二昼夜・お斎づき
報恩講 親鸞聖人七五〇年の
御正法要

どなたも気軽に足をお運びください。

あとがき

★早々の梅雨明け、節電が叫ばれるなか
猛暑日のつづく毎日、お盆を控えて、
いかがお暮らしようか。
★東北の震災に原発の被災者や避難者の
方々のご苦労を思えば、暑いと、くど
くことなど出来ないのですが、暑い暑
いという口から愚痴のいたらく、お恥ず
かし限りです。
★三月十一日京都の本山会議の帰り、新
幹線が名古屋駅直前でストップ、駅の
公衆電話で東北地震を自宅から知る。
★金曜日の名古屋はホテルは満杯。駅で
の野宿も覚悟したが、幸い六時すぎ静
岡発岡山行きが初めて名古屋に入。
★朝のテレビが上信越も地震との報道、
東海道線がダメなら北陸線もダメ。飛
行機もなし。駅に尋ねると午後には
東京行きが出るらしい。とにかく東京
までと一番電車の新幹線に乗車。
★東京駅で、停止していた上越新幹線が
初めて動くとのこと、身動きできぬ満
員電車、久方ぶりに新潟まで立ちつ
ぱなしでも無事帰宅できました。
★ホリエモンの「想定外」のことは今回
の震災で飛び交いました。人間の思い、
思考できるかぎりの緻密な計算、推
理を尽くしても、自然の猛威の前には
人間の力は無惨です。
★思えば、人間の人生そのものがすべて
想定外です。天災、戦争、病気から
倒産、失業、事故等すべて想定外、
人間の意志をこえ人間の自由を奪いま
す。こんなはずではなかった、まさかか
どうして?と、当てが外れるのが人
生、この世、娑婆ですよね。

未来の光が現在を救う

瑞林寺前住職 廣 澤 憲 隆

未曾有の東日本大震災は、明治維新、太平洋戦争の敗戦につづいての第三の国難に値するべきことです。これからの日本人の、私たちの生活の考え方や生きかた、価値観が大きく問い直されております。明治維新以来一四〇余年、西洋文明を取り入れ、いかにそれに追いつくかの道をまっしぐらに走り続けて追いついたとたん、科学技術の粋ともいえる原発事故は、地震・津波をはじめ自然界を人間の力で操作できるといふ人間の過信、うぬぼれをうち砕き、世界の一大転換を促す、歴史的事件となりました。あらためて、近代が育ててきた人間が問い返され、人間の原点、立脚地に返る時を迎えました。

未来を信じて生きる

東北のこのたびの被災者の語るなかに「未来を信じて生きる」という力強いことばを見いだしました。苦難、困難の真っ只中であって、明日の未来に生きる希望と活力を与えるのは未来の光です。その光とは具体的には政治・政策であり、その展望・計画と経済の裏付けでしょう。明日に光が見えれば「がんばる力」もおのずと沸いてくる。先が暗く、見通しも立たないのに「がんばれ、がんばれ」では励ましが苦痛のことばになります。未来の光―政治―が生きる力の源泉となる、私たちの安心な生活を左右する政治と政治家のもつ決定的な意味があります。今、私たちが未来を信じ、託せるよ

うな政治が待たれます。

人生の光 ―浄土の光―

政治が人間の生活にとつて活力を与える未来の光であるなら、この生活を含んで人生全体に生きる力、生命力を与えるのが未来の光、お浄土です。小生の友人が青年期に心の病に犯された時の心境を、「真つ暗なトンネルを行けども行けども明るみがない。もし前方に光が見えなければその人は自殺をす。もし光が見えればその人は助かる」と記しておりました。

肉体の死をもって人間の終わり、いのちの終結とする近代の人間観には、トンネルの先には光がありません。トンネルをどこまで進んでも闇の世界しかない。それでは困るので、この世の猶予期間をいかに長く保つが、それには医学、医療の進歩と開発ほかない。その結果、世界一の長寿国は年金・福祉・医療費の増大が国家の財政破綻を招く、このイタチゴッコが今の日本の混迷する最重要課題となっております。

浄土こそ人生の真実の宗 ―よりどころ―

トンネルの歩みは人生そのものです。暗いトンネルの中にあつて、転んで骨折したり傷ついたり、頭を打って血を出す毎日ですが、前方に光が見えれば、どんな困苦の状況に落ち込んでも大丈夫、安心の世界が与えられる。トンネルを出た世界は無量光明土、仏の世界、お浄土です。未来の浄土からの光が現在の苦悩する私たちの救いを今、保証しております。浄土の光は南無阿弥陀仏となつて響きわたる。その光への共感と感謝、感動と歓喜こそ私たちの称えるお念仏の信心です。

聖典を読む

親鸞聖人の

正信偈の二箇所 (9)

攝取心光常照護
已能雖破無明闇
貧愛瞋憎之雲霧
常覆真実信心天
譬如日光覆雲霧
雲霧之下明無闇

〈よみかた〉

攝取の心光、常に照護したもう。すでによく無明の闇を破すと言えども、貧愛・瞋憎の雲霧、常に真実信心の天を覆えり。たとえば、日光の雲霧に覆われるれども、雲霧のした明かにして、闇きこと、なきがごとし。

〈意味〉

ひとたび信ずる心がおこれば、

如来はその人を大悲の胸におさめとつて照らし護ってくださいます。

信ずる心によって迷いの根本無明の闇は破られてありますが、枝葉の煩惱である貧りや愛着、怒りや憎しみの心は、雲や霧のように、生きていくかぎり、次から次に信心の天空を覆い隠します。

しかし、ひとたび信の心がおこつて煩惱の根っこが切られた人はなにも心配ありません。

それは、どんなに大空が深い雲霧に太陽に覆われておつても、太陽は消えることはなく、闇夜になることはないことに譬えられます。

煩惱の根っこを切る

阿弥陀如来の大慈悲にふれて、ひとたび信ずる心が起これば、たちどころに、あらゆる煩惱の根本となつてゐる、無明の煩惱が切られます。

なぜなら、これまで自我中心、自己愛着の心を生きてきた人が、如来の心で生きること、心が回転することが信心であるからです。この信によつてあらゆる煩惱を起す因になる根本無明が破れる。

今まで私の心で考え、思つたり

していた当たり前の視点が、如来さまの心が私の心の主人となつて新しい生活が発する。この心の大変換が念仏の信です。

大木の根っこを切れば、木々の枝葉の煩惱はどんなに繁茂しておつても、自然に枯れますから心配はいりません。

雨天でもお日さまは照る

信をいただき、無明の闇がひとたび破れても、生きていくかぎり見れば見たように、聞けば聞くように次々に煩惱は起こるのが生身の人間です。このような人のありようを如来は凡夫といわれます。

それは、信心を得れば、心は常に雲ひとつない晴天になるように錯覚しがちですが、雲や霧が毎日湧きおこるよう、私の煩惱は絶えず起こり、雨の日もあれば曇る日もある。しかし、雲霧の上にはお日さまはいつも照らしておいでになつて、闇夜になることはありません。大切なのは常に私を照らすお日さまを信ずることです。